

Title	Alcohol Consumption and Mortality From Stroke and Coronary Heart Disease Among Japanese Men and Women. The Japan Collaborative Cohort Study
Author(s)	池原, 賢代
Citation	大阪大学, 2009, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/49910
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	いけ ほん さと よ 池 原 賢 代
博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)
学位記番号	第 2 2 7 2 3 号
学位授与年月日	平成 21 年 3 月 24 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 医学系研究科予防環境医学専攻
学位論文名	Alcohol Consumption and Mortality From Stroke and Coronary Heart Disease Among Japanese Men and Women. The Japan Collaborative Cohort Study (日本人男女における飲酒量と脳卒中死亡及び虚血性心疾患死亡との関連)
論文審査委員	(主査) 教 授 磯 博 康 (副査) 教 授 森 本 兼 曩 教 授 的 場 梁 次

論 文 内 容 の 要 旨

〔 目 的 〕

アルコール摂取量と循環器疾患死亡との関連については男性における報告が多いが、男女別のアルコール摂取量と脳卒中及び虚血性心疾患死亡との関連についてのエビデンスはほとんどない。

〔 方 法 なら び に 成 績 〕

本研究は、文部科学省科学研究費がん特定領域大規模コホート研究において、1988～1990年をベースラインとして日本在住40～79歳男女110792人を対象として質問紙を配布し、生活習慣や既往歴を調査した。そのうち、ベースライン時にがんや循環器疾患の既往があった者を除く、男性34776人、女性48906人からアルコール摂取量に関する回答を得た。アルコール摂取量は、男性は、非飲酒、過去飲酒、0.1～22.9g/日(1合未満)、23.0～45.9g/日(1～2合未満)、46.0～68.9g/日(2～3合未満)、69.0g/日以上(3合以上)の6区分し、女性は、多量飲酒者が少なかったため、多量飲酒を46.0g/日以上として5区分で解析を行った。非飲酒を基準として、年齢、循環器疾患の危険因子(高血圧既往、糖尿病既往、BMI、喫煙、運動、ストレス、教育歴、魚、野菜、果物の摂取頻度)を調整した死亡リスク比(95%CI)をCox 比例ハザードモデルにて算出した。解析には、SAS version 8.02を用いた。

2003年までの追跡期間中に(中央値:14.2年)、脳卒中死亡1628件、虚血性心疾患死亡736件が確認された。基本的属性として、男女ともに、非飲酒者に比べて、46.0g/日以上の多量飲酒者では年齢が若く、高血圧既往、喫煙、魚の摂取が多く、果物の摂取が少ない傾向があった。男性では、非飲酒者に比べて、46.0g/日以上の多量飲酒者の多変量調整ハザード比は、全脳卒中死亡1.48(95%CI:1.22～1.80)、出血性脳卒中死亡1.67(95%CI:1.17～2.38)、脳内出血死亡1.62(95%CI:1.07～2.45)、脳梗塞死亡1.35(95%CI:1.04～1.75)、全循環器疾患死亡1.33(0.99～1.29)と増加した。一方で、全循環器疾患死亡は、非飲酒者に比べて、46.0g/日未満の飲酒者で約12%のリスク低下を認めた(ハザード比=0.88,95%CI:0.78～1.00)。女性では、非飲酒者に比べて、46.0g/日以上の多量飲酒者で虚血性心疾患死亡ハザード比は4.10(95%CI:1.63～10.3)、虚血性循環器疾患死亡ハザード比は3.29(95%CI:1.61～6.73)、一方、全循環器疾患死亡は、46.0g/日未満の飲酒者で約25%のリスク低下を認めた(ハザード比=0.75,95%CI:0.62～0.91)。

〔 総 括 〕

これまで日本人を対象とした疫学研究では、女性における飲酒習慣と循環器疾患との関連についての成果が乏しかった。本研究より、多量飲酒は日本人男性では脳卒中死亡、特に出血性脳卒中死亡のリスクを増加させ、女性においては虚血性心疾患死亡リスクを増加させることが認められた。また、軽度～中等度の飲酒は日本人男女において循環器疾患死亡リスクを低下させることが明らかとなった。飲酒による循環器疾患死亡リスクの性差については、体格やアルコール代謝能などの生物学的要因やその他の生活習慣、職業などの社会的要因が影響した可能性もある。世界的にも女性の多量飲酒と健康影響に関する研究は少ないため、今後さらなる研究が望まれる。本研究結果とこれまでの先行研究の結果を総括すると、習慣的にアルコールを摂取する人においては、脳卒中や虚血性心疾患死亡の観点から、日本酒換算で1日1合あるいは2合未満が適正量であると考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、文部科学省大規模コホート研究において、男性34776人、女性48906人を14年間(中央値)追跡し、アルコール摂取量と脳卒中及び虚血性心疾患死亡との関連を調査した結果、男性では、非飲酒者に比べて、46.0g/日以上の多量飲酒者で全脳卒中死亡、出血性脳卒中死亡、脳内出血死亡、脳梗塞死亡のリスクの増加、女性で虚血性心疾患死亡、虚血性循環器疾患死亡のリスクの増加を認めた。一方で、男女ともに46.0g/日未満の飲酒者において全循環器疾患死亡のリスク低下が認められた。本研究より、多量飲酒は日本人男性では脳卒中死亡、特に出血性脳卒中死亡のリスクを増加させ、女性においては虚血性心疾患死亡リスクを増加させるが、少量～中等量の飲酒は男女ともに循環器疾患死亡リスクを低下させる方向に働くことが明らかになった。本研究は、わが国で初めてアルコール摂取量と脳卒中及び虚血性心疾患死亡との関連について男女別に分析した研究であり、公衆衛生上の重要なエビデンスの構築に寄与するものであり、学位に値するものと認める。